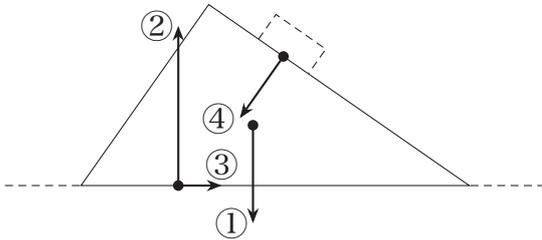


1

問1  $W_1 = \underline{mg}$ ,  $N_1 = \underline{mg \sin \theta}$ ,  $R_1 = \underline{mg \cos \theta}$

問2



- ① 台 D が受ける重力  $W_2$
- ② 床面  $H_0$  が台 D に及ぼす垂直抗力
- ③ 床面  $H_0$  が台 D に及ぼす静止摩擦力
- ④ 物体 A が台 D に及ぼす垂直抗力

問3  $a = \underline{g \sin \theta}$ ,  $N_2 = \underline{mg \cos \theta}$

問4 床面  $H_0$  が台 D に及ぼす垂直抗力の大きさを  $R_2$ , 摩擦力の大きさを  $f_2$  とする。台 D にはたらく鉛直方向の力のつり合いより

$$R_2 = Mg + N_2 \cos \theta = Mg + mg \cos^2 \theta$$

水平方向の力のつり合いより

$$f_2 = N_2 \sin \theta = mg \sin \theta \cos \theta$$

$f_2$  が最大静止摩擦力以下であればよいので,

$$mg \sin \theta \cos \theta \leq \mu_0 R_2 = \mu_0 (Mg + mg \cos^2 \theta) \quad \therefore \frac{m \sin \theta \cos \theta}{\underline{M + m \cos^2 \theta}} \leq \mu_0$$

問5 求めたい速さを  $v$  とする。等加速度運動の公式より

$$v^2 - 0^2 = 2aL = 2gL \sin \theta \quad \therefore v = \sqrt{\underline{2gL \sin \theta}}$$

問6 運動の方向に気をつけて運動量保存より,

$$0 = -MV + m(v \cos \theta - V) \quad \therefore V = \frac{mv \cos \theta}{\underline{M + m}}$$

問7 力学的エネルギーの保存より,

$$\begin{aligned} mgL \sin \theta &= \frac{1}{2}MV^2 + \frac{1}{2}mv^2 \{(v \cos \theta - V) + (v \sin \theta)^2\} \\ &= \frac{1}{2}MV^2 + \frac{1}{2}m(v^2 - 2vV \cos \theta + V^2) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &= \frac{1}{2}(M+m)V^2 - mvV \cos \theta + \frac{1}{2}mv^2 \\
 &= \frac{1}{2}(M+m) \left( \frac{mv \cos \theta}{M+m} \right)^2 - mv \cos \theta \cdot \frac{mv \cos \theta}{M+m} + \frac{1}{2}mv^2 \\
 &= -\frac{1}{2}m \cdot \frac{m \cos^2 \theta}{M+m} v^2 + \frac{1}{2}mv^2 \\
 &= \frac{1}{2}mv^2 \cdot \frac{M+m \sin^2 \theta}{M+m} \\
 \therefore v &= \sqrt{\frac{2(M+m)gL \sin \theta}{M+m \sin^2 \theta}}
 \end{aligned}$$

問8 台 D とともに運動する観測者から見ると、物体 A にはたらく台の斜面に垂直な方向の力はつり合っている。よって台 D の加速度の大きさを  $A$  とし、慣性力も考慮すれば

$$N' + mA \sin \theta = mg \cos \theta \quad \therefore N' = mg \cos \theta - mA \sin \theta$$

が得られるので、 $N' < N_2$  がわかる。

2

(1)

問1 大きさ： $qv_0B$ 、向き： $\underline{\underline{i}}$

問2 求めたい半径と周期をそれぞれ  $r$ 、 $\tau$  とする。円運動の運動方程式より

$$\frac{mv_0^2}{r} = qv_0B \quad \therefore r = \frac{mv_0}{qB}$$

$$\tau = \frac{2\pi r}{v_0} = \frac{2\pi m}{qB}$$

問3 誘導起電力の大きさ  $V$  は、ファラデーの法則より、

$$V = \frac{\pi r^2 \cdot 2B - \pi r^2 \cdot B}{T - 0} = \frac{\pi B}{T} \left( \frac{mv_0}{qB} \right)^2 = \frac{\pi m^2 v_0^2}{q^2 BT}$$

問4 誘導された電場の大きさを  $E$  とすると、

$$2\pi r \cdot E = V \quad \therefore E = \frac{mv_0}{2qT}$$

したがって力の大きさは

$$qE = \frac{mv_0}{\underline{\underline{2T}}}$$

問5 運動方程式より、加速度の大きさを  $\frac{v_0}{2T}$  で一定なので、求めたい速さを  $v(t)$  とすると

$$v(t) = v_0 + \frac{v_0}{2T}t = v_0 \left(1 + \frac{t}{2T}\right)$$

問6 求めたい力を  $F$  とする。円運動の運動方程式より、

$$\frac{mv(t)^2}{r} = qv(t)B \left(1 + \frac{t}{T}\right) + F$$

$$\therefore F = \frac{m}{\underline{\underline{mv_0}}} \left\{ v_0 \left(1 + \frac{t}{2T}\right) \right\}^2 - qv_0B \left(1 + \frac{t}{2T}\right) \left(1 + \frac{t}{T}\right) = \underline{\underline{-qv_0B \cdot \frac{t}{2T} \left(1 + \frac{t}{2T}\right)}}$$

{2}

まず、コイル L の自己インダクタンスを  $L = 2.00 \text{ mH} = 2.00 \times 10^{-3} \text{ H}$ , コンデンサー C の電気容量を  $C = 20.0 \text{ } \mu\text{F} = 2.00 \times 10^{-5} \text{ F}$ , 抵抗 R の抵抗値を  $R = 0.100 \text{ k}\Omega = 1.00 \times 10^2 \text{ } \Omega$ , 電池 E の起電力を  $E = 10.0 \text{ V}$  とおく。

問1 十分時間が経過した後、コイル L の電圧は 0, 抵抗 R の電圧は  $E$  となる。求めたい電流  $I$  は、オームの法則より

$$I = \frac{E}{R} = \frac{10.0}{100} = \underline{\underline{0.100 \text{ A}}} (= 100 \text{ mA})$$

このときコイル L に蓄えられるエネルギーは、

$$\frac{1}{2}LI^2 = \frac{1}{2} \cdot 2.00 \times 10^{-3} \cdot 1.00 \times 10^{-2} = \underline{\underline{1.00 \times 10^{-5} \text{ J}}} (= 10.0 \text{ } \mu\text{J})$$

問2 十分時間が経過した後電流は 0 となるため、抵抗 R の電圧は 0, コンデンサー C の電圧は  $E$  となる。求めたい電気量を  $Q$  とし、コンデンサーの基本式より、

$$Q = CV = 2.00 \times 10^{-5} \cdot 10.0 = \underline{\underline{2.00 \times 10^{-4} \text{ C}}} (= 200 \text{ } \mu\text{C})$$

コンデンサー C に蓄えられるエネルギーは、

$$\frac{1}{2}QV = \frac{1}{2} \cdot 2.00 \times 10^{-4} \cdot 10.0 = \underline{\underline{1.00 \times 10^{-3} \text{ J}}} (= 1.00 \text{ mJ})$$

問3 求めたい周期を  $T$  とし、電気振動の周期の式より、

$$\begin{aligned} T &= 2\pi\sqrt{LC} \doteq 2 \cdot 3.14 \sqrt{2.00 \times 10^{-3} \cdot 2.00 \times 10^{-5}} \\ &= 2 \cdot 3.14 \cdot 2.00 \times 10^{-4} \\ &= 12.56 \times 10^{-4} \doteq \underline{\underline{1.26 \times 10^{-4} \text{ s}}} (= 0.126 \text{ ms}) \end{aligned}$$

問4 スイッチを閉じてから時間  $t$  経過後のコンデンサー C の右側極板の電気量を  $q$  とすると、最大値を  $q_0$  として、

$$q(t) = q_0 \sin \frac{2\pi}{T} t$$

と表せる。はじめて  $|q| = q_0$  となるのは四分の一周期後であるから、

$$\frac{T}{4} = 3.14 \times 10^{-4} \text{ s} \approx \underline{\underline{3.14 \times 10^{-4} \text{ s}}} (= 0.314 \text{ ms})$$

問5 問3, 問4のときの電流の最大値をそれぞれ  $I_3, I_4$  とする。それぞれの場合のコイルのエネルギーの比を、エネルギー保存則も考慮して比較すると、

$$\frac{\frac{1}{2}LI_3^2}{\frac{1}{2}LI_4^2} = \frac{\frac{1}{2}QV}{\frac{1}{2}LI^2} = \frac{1.00 \times 10^{-3}}{1.00 \times 10^{-5}} = 1.00 \times 10^2 \quad (\because \text{問1} \cdot \text{問2})$$

$$\therefore \frac{I_3}{I_4} = \sqrt{1.00 \times 10^2} = \underline{\underline{10.0 \text{ 倍}}}$$

3

(1)

問1 壁から受ける力積により、運動量が  $-m\bar{v}$  から  $m\bar{v}$  の変化するので、

$$m\bar{v} - (-m\bar{v}) = \underline{\underline{2m\bar{v}}}$$

問2 1つの分子による力積の大きさは、作用反作用の法則より  $2m\bar{v}$  なので、時間  $\Delta t$  の間では

$$2m\bar{v} \cdot \frac{1}{6}N \times \frac{S\bar{v}\Delta t}{V} = \frac{Nm\bar{v}^2 S \Delta t}{\underline{\underline{3V}}}$$

問3 力は単位時間あたりの力積であり、それを単位面積に直せば求めたい圧力  $p$  が得られる。

$$p = \frac{Nm\bar{v}^2 S \Delta t}{3V} \cdot \frac{1}{S} = \frac{Nm\bar{v}^2}{\underline{\underline{3V}}}$$

問4 状態方程式より

$$NkT = pV = \frac{Nm\bar{v}^2}{3} \quad \therefore \frac{1}{2}m\bar{v}^2 = \frac{3}{2}kT$$

問5 衝突の式より

$$-1 = \frac{U - (\bar{v} + \Delta\bar{v})}{U - (-\bar{v})} \quad \therefore \Delta\bar{v} = \underline{\underline{2U}}$$

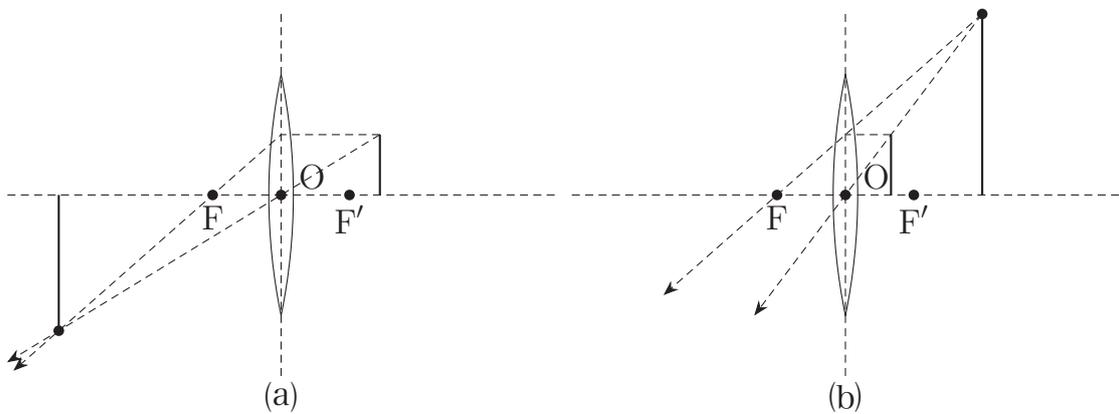
問6 時間  $\Delta t$  の間に衝突する分子の数は問2 で考えたのと同様なので,

$$\Delta E_N = m\bar{v}\Delta\bar{v} \cdot \frac{1}{6}N \times \frac{S\bar{v}\Delta t}{V} = \underline{\underline{\frac{Nm\bar{v}^2\Delta V}{3V}}}$$

問7  $p = \frac{Nm\bar{v}^2}{3V}$  だったので,  $\Delta E_N = p\Delta V$  である。

(2)

問1



問2 レンズ  $L_1$  による像がレンズ  $L_1$  の後方に距離  $b_1$  の位置にできるとすると,

$$\frac{1}{3f/2} + \frac{1}{b_1} = \frac{1}{f} \quad \therefore b_1 = 3f$$

また, このときの倍率  $m_1$  は

$$m_1 = \frac{b_1}{3f/2} = 2$$

さらに, レンズ  $L_2$  による像を考え, 倍率が  $\frac{5}{2}$  倍の虚像ができることを考慮すると

$$\frac{1}{d-3f} - \frac{1}{5(d-3f)/2} = \frac{1}{2f} \quad \therefore d = \underline{\underline{\frac{21}{5}f}}$$